人文学研究科

博士前期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士前期課程は，人文学（ヒューマニティーズ）の理念に基づき，言語学，文学，思想・宗教学，芸術文化学，歴史・社会学，言語教育学などの分野に関する専門知識を基盤とし，日本や世界の多様な文化を深く学び理解することで幅広い視野と自由な発想に基づく研究能力を獲得し、教育・研究をはじめ様々な領域で活躍できる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ，本研究科博士前期課程では，人文学（ヒューマニティーズ）の理念に基づいて，学問の自由の観点を最大限重視しつつ，労働集約（ものつくり）型から知識集約（情報サービス）型へと移行しつつある社会の状況に機敏に対応すべく，日本や世界の多様な文化を深く学び理解することで，幅広い視野と自由な発想に基づく研究能力を獲得するための学びの場として，欧米言語文化専攻、中国言語文化専攻，日本文化専攻を設けています。

これら三専攻での学びを通して，学士課程修了時までに身につけた，言語学、文学，思想・宗教学，芸術文化学，歴史・社会学，言語教育学などの分野に関する幅広い知識をより専門的な知識へと深め，修士論文の作成を通じて，論理的思考能力を涵養し，規範的判断力を培うことを目標としています。

加えて，本学附設の研究組織である人文学研究所や言語研究センター，非文字資料研究センターの諸活動と連携しつつ，高度な専門職業人として，教育，博物館や美術館，劇場，さらには出版やマスコミ関係などの業務の中核的な担い手として，今後の多文化共生社会の発展に寄与貢献しうる人物の育成を目標としています。この課程はまた，中等教育の現場にいる人たちの再教育の場を提供することも目標として掲げています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程において，各専攻のカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し，提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は，以下の能力を身につけていると判断され，修士（文学）の学位が授与されます。

1.自立した良識ある市民としての判断力と実践力
(1)対象地域の言語，文学，思想・宗教，芸術文化，歴史・社会，言語教育などに関する幅広い知識を身につけている。
(2)グローバル化に伴う社会変化に適応する柔軟性と行動力を身につけている。

2.国際的感性とコミュニケーション能力
(1)修得した言語を的確に運用しコミュニケーションを図る力を身につけている。
(2)異なる文化的背景を持つ人々と積極的に交流し，相互理解を深める力を身につけている。

3.時代の課題と社会の要請に応えた専門知識と技能
(1)各専攻が取り扱う分野についての優れた専門知識と研究能力，およびそれを幅広い視野の下に位置づける力を身につけている。
(2)専門職，教育職，研究職に必要な思考力と，産業界，教育界，学界において国際的に活動できる力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士前期課程は，高度な言語運用能力を基盤とし，対象地域の言語，文学，思想・宗教，芸術文化，歴史・社会，言語教育などの分野に関する優れた専門知識と研究能力，およびそれを幅広い視野の下に位置づけて，国際的な場において，専門的職業人，教育者，研究者として活動できる人

材を育成するために，以下のような教育課程を編成しています。

1.教育課程の編成・実施

(1)学士課程教育との接続に配慮しつつ，対象地域の言語運用能力を一層高め活用しながら，当該地域の言語，文学，思想・宗教，芸術文化，歴史・社会，言語教育などの分野について理論的に探究する能力，さらにはそれを幅広い視野の下に位置づけ応用する能力を身につけられるカリキュラムを提供しています。

(2)講義科目では，各専攻において設定された研究領域・コースに区分してカリキュラムを編成し，各研究領域における専門知識と研究能力を身につけることができるよう科目を配置しています。欧米言語文化専攻は「言語学」「言語教育・応用言語学」「文学・思想」「歴史・社会」の4コース，中国言語文化専攻は、中国語圏の「言語」と「歴史・文化」の2領域，日本文化専攻は，「日本語学」「日本文学」「日本文化学」「日本思想」「国語教育学」の5領域に区分してカリキュラムを編成しています。

(3)演習科目では，学生自らが研究課題を設定し研究活動を行うことによって修士論文作成へと導くことができるよう科目を配置しています。また，高度な言語運用能力やプレゼンテーション能力の向上のための指導も提供しています。

2.教育の方針と評価

(1)教育課程の実施に当たっては，学生個々人の自律的思考と問題発見能力を尊重し，ディスカッションを通してコミュニケーション能力の向上を図るとともに，問題解決の方策を主体的に模索，構築していく力を培います。

(2)教育者としての能力を培うために TA(ティーチング・アシスタント)業務に従事する機会を提供しています。

(3)修士論文の作成過程において，公開形式による中間報告会を実施しています。論文の進捗状況を確認し，指導教員のみならず，それ以外の教員や学生から問題点を指摘するなど適切な指導を行っています。

(4)修士論文の審査には，3 名の教員による口頭試問を実施し，適正な評価を行っています。

(5)単位制度の実質化を図り，成績評価の基準を明確化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1.大学院教育によって培う能力

(1)本研究科が取り扱う研究分野の基礎となる専門知識と基礎的な研究能力

2.本研究科の求める入学者

(1)本研究科が取り扱う研究分野に必要な基盤となる言語運用能力を備えている人

(2)本研究科が取り扱う研究分野に必要な基礎知識を有する人

3.学士課程までの能力に対する評価(選抜方法)

(1)研究に必要な基盤となる言語運用能力と，研究分野に対する基礎的な知識の有無,および研究に臨むに当たっての意欲の高さを基準に選考します。

人文学研究科

博士後期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士後期課程は，人文学（ヒューマニティーズ）の理念に基づき，言語学，文学，思想・宗教学，芸術文化学，歴史・社会学，言語教育学などの分野に関する豊かな専門知識を基盤とし，日本や世界の諸相について深く研究することで幅広い視野と自由な発想、深い洞察力に基づく研究能力を獲得し、学界、教育界、産業界において国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ，本研究科博士後期課程では，人文学（ヒューマニティーズ）の理念に基づいて，学問の自由の観点を最大限重視しつつ，労働集約（ものつくり）型から知識集約（情報サービス）型へと移行しつつある社会の状況に機敏に対応すべく，日本や世界の諸相について深く研究することで，幅広い視野と自由な発想，深い洞察力に基づく研究能力を獲得するための学びの場として，欧米言語文化専攻，中国言語文化専攻，日本文化専攻を設けています。

これら三専攻での学びを通して，博士前期課程修了時までに身につけた言語学，文学，思想・宗教学，芸術文化学，歴史・社会学，言語教育学などの分野に関する豊かな専門知識とその研究手法を一層深め，博士論文の作成を通じて，論理的思考能力を涵養し，規範的判断力を培うことを目標とします。

加えて本学附設の研究組織である人文学研究所や言語研究センター，非文字資料研究センターの諸活動と連携しつつ，国際的な研究状況にも積極的に参画することで，今後の多文化共生社会の発展に寄与貢献しうる自立した研究者の育成を目標としています。この課程はまた，中等教育の現場にいる人たちの再教育の場を提供することも目標として掲げています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程において，各専攻のカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し，提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は，以下の能力を身につけていると判断され，博士（文学）の学位が授与されます。

1.自立した良識ある市民としての判断力と実践力
(1)対象地域の言語，文学，思想・宗教，芸術文化，歴史・社会，言語教育などに関する幅広い知識を身につけている。
(2)グローバル化に伴う社会変化に適応する柔軟性と行動力を身につけている。
(3)自律的な思考力，既存の理論や学説に対する批判的精神を身につけている。

2.国際的感性とコミュニケーション能力
(1)修得した言語を的確に運用し，積極的にコミュニケーションを図る力を身につけている。
(2)世界の動向を注視しつつ，異なる文化的背景を持つ人々と積極的に交流し，相互理解を深める力を身につけている。

3.時代の課題と社会の要請に応えた専門知識と技能
(1)各専攻が取り扱う分野についての優れた専門知識と研究能力，およびそれを幅広い視野の下に位置づける力を身につけている。
(2)専門職，教育職，研究職に必要な思考力と，産業界，教育界，学界において国際的に活動できる力を身に着けている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士後期課程は，高度な言語運用能力を基盤とし，対象地域の言語，文学，思想・宗教，芸術文化，歴史・社会，言語教育などの分野に関する高度な専門知識と研究能力，およびそれを幅広い視野の下に位置づけて，国際的な場において，研究者，教育者，専門的職業人として活動できる人材を育成するために，以下のような教育課程を編成しています。

1.教育課程の編成・実施

(1)修士課程教育との接続に配慮しつつ，対象地域の言語運用能力を一層高め活用しながら，当該地域の言語，文学，思想・宗教，芸術文化，歴史・社会，言語教育などの分野について理論的に探究する能力，さらにはそれを幅広い視野の下に位置づけ応用する能力を身につけられるカリキュラムを提供しています。

(2)講義科目では，各専攻において設定された研究領域・コースに区分してカリキュラムを編成し，各研究領域における専門知識と研究能力を身につけることができるよう科目を配置しています。欧米言語文化専攻は「言語学」「言語教育・応用言語学」「文学・思想」「歴史・社会」の4コース，中国言語文化専攻は，中国語圏の「言語」と「歴史・文化」の2領域，日本文化専攻は，「日本語学」「日本文学」「日本文化学」「日本思想」「国語教育学」の5領域に区分してカリキュラムを編成しています。

(3)演習科目では，学生自らが研究課題を設定し積極的な研究活動を行うことによって博士論文作成へと導くことができるよう科目を配置しています。また，高度な言語運用能力やプレゼンテーション能力の向上のための指導も提供しています。

2. 教育の方針と評価

(1)教育課程の実施に当たっては，学生個々人の自律的思考と問題発見能力を尊重し，ディスカッションを通してコミュニケーション能力の向上を図るとともに，問題解決の方策を主体的に模索，構築していく力を培います。

(2)教育者としての能力を培うために TA(ティーチング・アシスタント)業務に従事する機会を提供しています。

(3)博士論文の作成過程において，公開形式による中間報告会と予備審査を実施し，高度な専門知識，独創性と学際性を持った論文作成ができるよう適切な指導を行っています。

(4)博士論文の審査には，5 名の教員による論文審査と公聴会を実施し，厳格な評価を行っています。

(5)単位制度の実質化を図り，成績評価の基準を明確化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1.大学院教育によって培う能力

(1)本研究科が取り扱う研究分野の基盤となる専門知識と高度な研究能力

2.本研究科の求める入学者

(1)本研究科が取り扱う研究分野に必要な高度な言語運用能力を備えている人

(2)本研究科が取り扱う研究分野に必要な専門知識を有する人

3.博士前期課程までの能力に対する評価(選抜方法)

(1)研究に必要な高度な言語運用能力と，研究分野に対する専門的な知識の有無，および研究に臨むに当たっての意欲の高さを基準に選考します。